

第2・3学年 算数科学習指導案

日時 2006年10月24日(火) 5校時

児童 第2学年 男子4名 女子3名 計7名

第3学年 男子6名 女子3名 計9名

授業者 熊谷 真弓

- 1 単元名 第2学年 4けたの数(2年下p46～)
第3学年 大きい数のしくみ(3年下p2～)

2 単元の目標

2年

☆10000までの数についてその表し方を理解し、数の概念についての理解を深めるとともに、数を用いる能力をいっそう高める。

[関心・意欲・態度]

- ・10000までの大きい数に関心をもち、進んで数を書いたり読んだりしようとする。

[数学的な考え方]

- ・10000までの数の表し方を、既習の1000までの数のしくみ(十進法位取り記数法)から類推して考える。

[表現・処理]

- ・10000までの数を読んだり書き表したりすることができる。

[知識・理解]

- ・10000までの数について、数の読み方や書き表し方、数の構成や系列、順序、大小など理解する。

3年

☆千万の位までの整数について、その表し方や構成を理解し、数の概念についての理解を深める。

[関心・意欲・態度]

- ・千万の位までの大きな数に関心をもち、進んで数を書いたり読んだりしようとする。

[数学的な考え方]

- ・千万の位までの数の表し方を、既習の一万までの数のしくみ(十進法位取り記数法)から類推して考える。

[表現・処理]

- ・千万の位までの数を読んだり書き表したりすることができる。

[知識・理解]

- ・千万の位までの数について、その表し方のしくみや数の系列、順序、大小などを理解する。

3 単元について

(1) 教材について

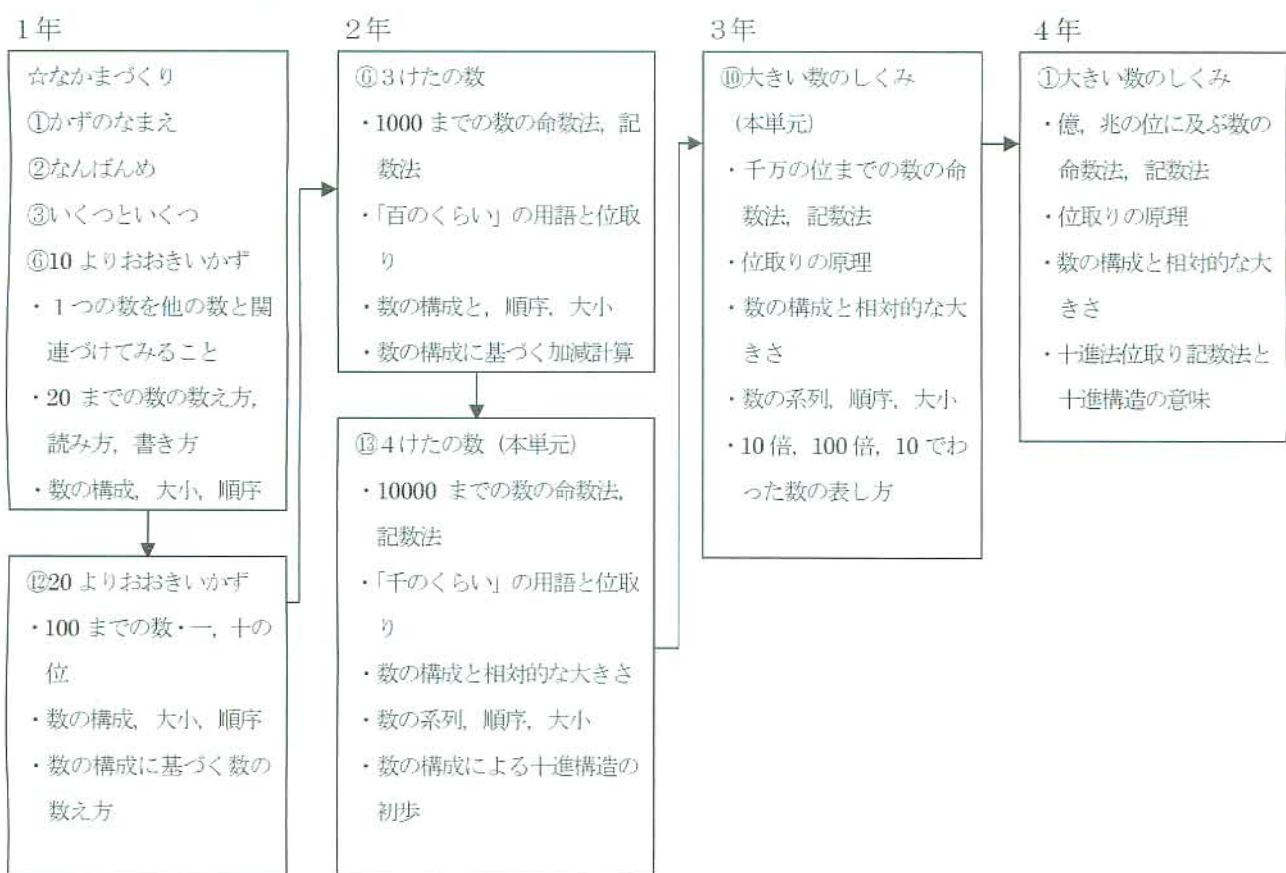
第1学年第12単元「20よりおおきいかず」や第2学年第6単元「3けたの数」では、10や100のまとまりをつくりながら数える活動を通して、数の読み方や書き表し方を学習してきた。また、数の構成や相対的な大きさ、系列や大小などについても学習している。

第2学年の本単元では、数範囲が10000まで拡張することになるが、4位数の具体物を実際に1つずつ数えて、100や1000のまとまりをつくることは容易ではないので、実感をもって数の大きさをとらえることは難しい。そこで、既習である100や10のまとまりの図などを利用して、まとめたり数えたり分類して数えたりする活動を通して数の大きさをとらえ、量感を育成しながら命数法や記数法などの理解を導いていく。また、1000や100を単位として数をとらえさせ、数の構成について理解を深めるとともに、数カードを用いて、100を18こ集めた数は1800ととらえたり、2300は100を23こ集めた数ととらえたりする活動を通して、数の相対的な大きさについても理解させる。さらに、数直線を媒介として数の系列、順序、大小をとらえられるようにする。

第3学年では、さらに大きい千万までの数を扱う。具体的な数える活動は難しくなり、抽象的な思考が必要となってくる。そこで、数の表し方や数のしくみに目を向けさせて、十進位取り記数法、つまり「10 このまとまりができたときに新しい1つのまとまりに表すこと」と「数字の位置によって数の大きさが異なること」を十分理解させていく。また、14000をもとに数の相対的な大きさについて学習していくが、模擬紙幣などを用いて単位を変える必要感をもたせながら理解を図る。さらに、数直線の最小目盛りを明らかにし、数直線に表された数を読んだり、数直線の目盛りに数を書き入れたりする学習を通して、数の系列、順序、大小、構成についての理解を深める。

どちらの学年でも、数を多面的にみることによって、数の大きさについての理解が図られなければならない。数カードを操作する活動や数直線に表す活動を通して、数の表し方とともに数の大きさについて理解が深まるようにし、十進位取り記数法のしくみとよさを理解させるようにしたい。

(2) 教材の関連と発展



4 児童について

レディネステストの結果から、2年生も3年生もこの単元の内容はおおむね理解していることはつかめた。しかし、2年生も3年生も数の大きさを相対的にとらえることにつまずきのある児童がいた。また、数直線上に表された数を読むことにも、抵抗を感じている児童がいた。

またNRTや学習定着度状況調査でも同様のつまずきがあり、数の大きさをとらえる感覚が十分に身に付いていないことが分かる。

初めて複式学級になって半年が過ぎた。算数の授業は日常的には学年別に単式で、単元の内容によっては複式学級で行ってきたが、児童は複式で行う授業をととても喜び、いつも以上に意欲的に取り組んできた。

2年生は、考えがあっても人前で話せない子もいたが、3年生の意欲的な学習態度や発言の内容に刺激を受け、進んで自分の考えや友達のかえのよさを見つけて話すことができるようになってきた。

3年生は学習の手順をよく理解し、授業に意欲的に取り組み、いろいろな解決方法を工夫したり、友達の発表もよく聞き、積極的に学び合うことができるが、さらに2年生と一緒に学習することで、学習内容を確かめたり、深めたりすることができるようになってきている。

5 指導にあたって

どちらの学年でも数カード等を用いて、大きな数を10ずつや100ずつ、1000ずつにまとめて数える経験を充実させるとともに、「460は□と□、460は□より□大きい、460は□より□小さい」等の柔軟な数の見方ができるようにしたい。また、数が大きくなり具体的に数えることが困難になってきているので、模擬紙幣などを使って、お金の両替等の身近な事象を通して、10を46個集めると460、460は10を46個集めた数という見方ができるようにすることも大切にしたい。

本時は、数の系列や順序について、数直線上から読み取ったり、表したりする学習である。NRTやレディネステストから、3年生にこの内容が十分定着していないことが明らかになっている。2年生もつまづきが予想される内容である。そこで、この内容を一緒に学習することで、3年生には学び返しによって、内容の習熟を図りたいと考えた。また、2年生は3年生の説明を聞いたり、3年生からヒントやアドバイスを受けたりすることで、内容をより確かに身につけさせたいと考えた。そして、児童を個人差のある一つの学級集団ととらえ、3年生を本時の具体的評価規準の「十分満足できる状況」に、2年生を「おおむね満足できる状況」になるように、支援していきたい。

「みつける」段階で3年生に既習を生かした解決の見通しを発表させる。全員に「できそうだ」という意欲をもたせて、解決に入らせる。自力解決では、3年生にはいろいろな視点で数を読み取り、2年生に分かりやすく説明できるように机間指導していく。2年生はどのようにして数を読みとったり、表したりしたのかを机間指導でとらえ、一人一人が自信をもって答えとわけを発表できるようにプリントにまとめさせる。

「たしかめる」段階では、2年生には答えと簡単なわけをはっきり発表させる。また、友だちと自分の答えや考えを比べさせ、共通点や相違点に気づかせる。3年生には、どのように読み取ったかという方法（1目盛りを押さえて数えていく方法や、千や百のまとまりで読み取っていく方法、さらに近くの日盛りに目をつけて読み取る方法など）だけでなく、意味（1000を10等分しているから1目盛りが100になること、100が17個集まったから1700になること、3000を読み取るには、数直線に示された2つの並んでいる数（1000と2000）に着目すると1000とびで数えられること、5000より100多いのは5100であることなど）も合わせて説明させたい。このことによって、2年生も自分の考えの根拠をより明確にすることができ、数に対する理解も多様になると考える。また、3年生にとっても、数に対する理解も深まり、数直線上の数の読み取りや、数直線上に数を表したりすることがより確かになると考える。さらに、それぞれの解決方法から、正しく速く数直線上の数を讀んだり、表したりするための共通点を学び合いによってまとめていく。

「ひろげる」段階では、練習問題の「4800—4900—□—5100」「1960—1970—□—1990—□」「8900—□—9100—9200」などのように、ある位が繰り上がったたり、繰り下がったりする内容は、3年生の中にも抵抗を感じる児童が多いことが考えられる。しかし、異学年でペアを組むことによって、2年生は安心感をもち、3年生はより意欲的に学び合いで得た考え方を生かして、練習問題に取り組むと考える。ペアでまとめた答えと読み取りの視点を全体で確かめ、問題⑩を全員で解く。1目盛りの表す大きさを9990と9995の2つの並んだ数に着目して、その間が5つに分けられていることから1ということをしっかり確認する。1目盛りの大きさの読み取りを確実にしたい。また、10000より2少ない数は9998であるという数の見方や、数の大きさを視覚的にとらえられることができる数直線のよさにも気づかせたい。最後に、今日の学習の振り返りをペアで交流することによって、全員に発言の機会を与える。そしてお互いのよさを認め合い、一緒に学習するよさを感じさせたい。

6 指導計画【複式同単元指導計画】

単元名	4けたの数 12時間 (標準時数11時間)	2学年	時数	3学年	大きな数のしくみ 12時間 (標準時数8時間)	単元名
主な評価規準	学習内容・学習活動・時間		形態	学習内容・学習活動・時間		主な評価規準
【関】身の回りのものを10や100や1000のまとまりにして数えようとしている。	<p>めあて 大きな数を工夫して数えよう。</p> <p>○自力解決 ・魚の数を数える。</p> <p>○学び合い ・どのようにして数えたり読んだりしたのか発表する。</p> <p>まとめ 大きな数は1000や100, 10のまとまりをつくって数える。</p> <p>○練習問題と振り返り (第1時=60分)</p>			<p>○自力解決 ・魚の数を数え、2年生に分かりやすいように説明を考える。</p> <p>○学び合い ・2年生の発表に対して質問して深めたり、補足したりする。</p> <p>○練習問題(未習の一万より大きい数も加える)と振り返り (第1時=60分)</p>		<p>【表】10や100や1000のまとまりを作って数えたり、唱えたりすることができる。</p> <p>【知】4位数の位取りの原理と記数法を理解している。</p>
【考】2位数、3位数の表し方から類推して、4位数の表し方を考えている。	<p>・数えた10000未満の数を数字で書き表す方法を考え、記数法を理解する。</p> <p>・用語「千のくらい」を知る。</p> <p>(第2時)</p>			<p>・絵を見て、入場券の枚数を数える。</p> <p>・24153の数構成と命数法をまとめる。</p> <p>・用語「一万の位」を知る。</p> <p>(第2時)</p>		<p>【関】束ごとに数えるよさに気づき数えようとしている。</p> <p>【知】十万未満の数の読み方や書き方、数の構成を理解している。</p>
【表】具体物の個数を位取りの原理をもとに書き表すことができる。	<p>・4位数を表す数カードを見て、その数を数字で表す。</p> <p>・4位数を読んだり書いたりする。</p> <p>(第3時)</p>			<p>・一万を10個集めた数を「十万」といい、「100000」と書くことを理解する。</p> <p>・一万～千万の数の表し方のしくみを考え、それぞれ10個分の関係になっていることをまとめる。</p> <p>(第3時)</p>		<p>【考】既習の10000までの数のしくみから類推して、一万～千万の数のしくみも10個分の関係になっていることをとらえている。</p>
【知】4位数の各位の数字はそれぞれ1000, 100, 10, 1の単位の個数を示していることを理解している。	<p>・4位数の、数の構成をもとにした表し方(合成・分解)を練習する。</p> <p>・4位数の数の構成を、等式を使って表す。</p> <p>(第4時)</p>			<p>・一万の位から左に順に「十万の位, 百万の位, 千万の位」ということを知る。</p> <p>(第4時)</p>		<p>【表】千万の位までの数を読んだり書いたりできる。</p>
【考】100をもとにした数の相対的な大きさ(乗法的)をとらえている。	<p>・100を18個集めた数について考えることを通して、数の相対的な大きさを乗法的にとらえる。</p> <p>(第5時)</p>			<p>・14000は1000を何個集めた数かを考える。</p> <p>(第5時)</p>		<p>【考】数を相対的な大きさでとらえている。</p>
【考】100をもとにした数の相対的な大きさ(除法的)をとらえている。	<p>・2300は100をいくつ集めた数かについて考えることを通して、数の相対的な大きさを除法的にとらえる。</p> <p>(第6時)</p>					


単元名	4けたの数 12時間 (標準時数11時間)	2学年	時数	3学年	大きな数のしくみ 12時間 (標準時数8時間)	単元名
主な評価規準	学習内容・学習活動・時間	形態		学習内容・学習活動・時間	主な評価規準	
【知】千を10個集めた数を「一万」といい、10000と書くことを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 図の●を工夫して数え、1000を10個集めた数を「一万」といい、「10000」と書くことを知る。(第7時) 			<ul style="list-style-type: none"> NRTやCRT, 学習定着度状況調査の数直線の読み取り問題, 数の構成に関する問題を解く。(第6時) 	補充	
【表】数直線上に表された数を読むことができる。	<p>めあて 10000までの数の線のめもりを読みとろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自力解決 <ul style="list-style-type: none"> 数の線を読む。 わけを説明できるようにする。 ○学び合い <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表する。 <p>まとめ 数の線のめもりを読むときには、1めもりの大きさに目をつけます。</p> <p>(第8時=60分)</p>	本時		<ul style="list-style-type: none"> ○自力解決 <ul style="list-style-type: none"> 2年生に分かりやすいように説明を考える。 ○学び合い <ul style="list-style-type: none"> 2年生の発表を補足して、考えを発表する。 <p>(第7時=60分)</p>	【表】数直線上に表された数を読むことができる。	
【考】10000までの数の構成や系列について、多面的にとらえている。 【知】同じけた数の数の大小を判断するには、大きい位から順に、同じ位の数どうしの大小を比較すればよいことを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 5200と4650ではどちらが大きいかを考える。 数の大小を判断するには、何の位に着目すればよいかを考える。 7400を多様な見方でとらえる。 500とびで数を数えたり、大きい数から小さい数の順に2とびで唱えたりする活動に取り組む。(第9時) 			<ul style="list-style-type: none"> 数直線に表された数を読んだり、数直線に表したりする。 □に「=」があてはまる式を探す。 「等号」の用語と意味についてまとめる。(第8時) 	【表】数直線上に表された整数を読んだり、数直線上に整数を表したりすることができる。 【知】「=」は数や式の相等関係を表すことを理解している。 発展「<」「>」	
発展	<ul style="list-style-type: none"> 100枚束、1000枚束の絵を見て、何百+何百、千何百-何百、何千±何千、一万-何千の計算のしかたを考える。(第10時) 			<ul style="list-style-type: none"> 20の10倍の数を考える。 もとの数と10倍した数の並び方を比べる。 25の10倍の数を考える。(第9時) 	【知】10倍した数はもとの数に0を1個つけた数になることを理解している。	
				<ul style="list-style-type: none"> 25の10倍の10倍した数を考える。 200を10でわった数を考える。 もとの数と10でわった数の並び方を考える。(第10時) 	【知】100倍した数はもとの数に0を2個つけた数になること、10でわった数はもとの数の一の位の0をとった数になることを理解している。	
【知】基本的な学習内容について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 「たしかめよう」に取り組む。 単元の学習を振り返る。(第11時=60分) 			<ul style="list-style-type: none"> 「たしかめよう」に取り組む。 単元の学習を振り返る。(第11時=60分) 	【知】基本的な学習内容について理解している。	

7 本時の指導

- (1) 目標 10000 までの数の系列, 順序について理解する。
- (2) 具体の評価規準と支援

評価の観点 (評価方法)	具体的評価規準		
	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する子への支援
表現・処理 (学習プリント・数直線)	・目盛りの大きさや位置関係を正確にとらえて、数直線上に表された数を読むことができる。	・数直線上に表された数を読むことができる。	
予想される 反 応	・問題に応じて、視点を変えて数を読んでいる。 ・1つだけでなく、いろいろ視点でそれぞれの数を読んでいる。	・大きな目盛り 1000 に目をつけて、1000 とびで数を読んでいる。 ・1 目盛りの大きさに目をつけて、数を読んでいる。 ・近くの目盛りに目をつけて、数を読んでいる。	・1 目盛りに着目していない。 ・1 目盛りが 100 であることが分らない。(1 や 10 ととらえている。) ・目盛りを正しく数えられない。
指導の 手だて	・問題に応じて、視点を変えている児童には、それぞれの視点を言葉で明確にさせる。 ・学び合いの時に、友だちの考えの共通点やよさを指摘できるように意欲づける。	・1つの視点だけでなく、違う視点でも数を読むことができないか考えさせる。	・一番小さい目盛りはいくつかを考えさせる。 ・1000 がいくつに分かれているか考えさせる。(場合によっては、数カードなどより具体的なものを使う) ・一緒に目盛りを数える。

(3) 展開

支援(【評価】、◆個への配慮)	2年学習活動	5分	3年学習活動	支援(【評価】、◆個への配慮)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントを用意し、効率化を図る。 ・前時使った数直線を提示しながら、10000 までの数の学習であることを確認する。 ・めあてのキーワードを言わせる。(数の線、めもり) 	<p>1 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題 下の数の線を見て答えましょう。 □ にあてはまる数を答えましょう。</p>  </div>		<p>1 問題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントを用意し、効率化を図る。 ・前時、数直線の復習問題に取り組んだことを振り返らせ、意欲を持たせる。 ・3年生に学習のめあてをまとめさせたい。
	<p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 10000 までの数の線のめもりを読みとろう。</p> </div>	つかむ	2 課題を把握する。	
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生に負けないようにたくさん気づいたことを発表するよう、意欲を喚起する。 ・3年生の発言を聞くことで、解決の見通しをしっかりとりたい。 ・答えが出せた児童には、数をどのようにして読んだか、わかりやすく説明するよう指示する。 	<p>3 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数直線を見て気づいたことを発表させる。 ・0 が左にある。 ・めもりの線の長さが違う。 ・1000, 2000, 5000 がある。 ・1000 が 10 に分けてある。 ○自力解決の手順を確認する。 ・ア～オの数を□に書く。 ・どのようにして読んだかわけも書く。 	み	<p>3 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数直線を見て気づいたことを発表させる。 ・右へ行くと大きくなる。 ・大きなめもりは 1000 とび ・小さなめもりは 1000 を 10 に分けてあるので 100。 ○自力解決の手順を確認する。 ・答えだけでなく、なぜその答えになったのか、わけを書くことを重点にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生に解決の見通しのヒント与えようという意欲をもたせる。 ・1 目盛りの大きさや数の相対的な大きさについての視点を与え、2年生の見通しを補うようにさせたい。また、自力解決でいろいろな視点で読み取れるようにしたい。
		み		

支援 (【評価】、◆個への配慮)	2年学習活動	語	聴	語	3年学習活動	支援 (【評価】、◆個への配慮)
<ul style="list-style-type: none"> 1つの問題にとどまらず全ての問題に当たるように促す。発表の段階で答えだけでなく、どのようにして読み取ったのかを説明できるように、「見通し」の中から視点となる考えを机間指導で明確にし、自信をもって発表できるようにさせたい。 <p>【表現】数直線上に表された数を読むことができる。(プリント・発表)</p>	<p>4 自力解決をする。</p> <p>予想される反応 ②④⑥は考えの視点</p> <p>①1目盛りが100であることに目をつける。アは30個目のところだから3000、イは40個目のところだから4000、ウは100が6で600、エは100が17で1700、オは100が51で5100。</p> <p>②何千といくつに目をつける。アは1000とびなので3000、イは4000、ウは1000の半分の500と100で600、エは1000と700で1700、オは5000と100で5100。</p> <p>③近くの日盛りに目をつける。アは2000より10目盛り右なので3000、イは5000より10目盛り左なので4000、ウは500より100大きいから600。(1000より400小さいから600)、エは1000より700大きいから1700。(2000より300小さいから1700)、オは5000より100大きいから5100。</p>	15分		15分	<p>4 自力解決をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2年生に正しく、速く数を読み取る方法を、わかりやすく説明するという意識を持たせて解決させることで、1目盛りの大きさを確実にとらえさせる。また、数を相対的な大きさでとらえて説明させ、理解を確かめたい。 <p>【表現】数直線上に表された数を読むことができる。(プリント・発表)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすく発表させるようにする。 自分の考えと同じなのか違うのかを考えながら、発表を聞かせる。 ◆指名は下位児童から意図的に行う。 ◆B、C児童には同じか違うかを意思表示させたい。 ◆A児童にはどこが同じなのかを積極的に説明させたい。 児童のネームカードを貼って、個の考えを板書に位置づける。 3年生との学び合いや板書をもとにしながら数直線を読み取るときに、1目盛りの大きさが大切であることに気づかせたい。 	<p>5 学び合う。</p> <p>○それぞれ解決したことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aの問題から答えとわけを発表する。 友だちの考えがあっているかどうかを確かめる。 自分の考えとの共通点を説明する。 <p>○数直線を読むときに大切なことは何かを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1目盛りの大きさに目をつける。 	15分	た た し し か か め め る る	15分	<p>5 学び合う。</p> <p>○それぞれ解決したことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生の考えを聞いて、質問したり、意見を発表したりする。 同じ考え方で解決した児童からの説明。 違う視点で解決できる児童の説明。 <p>○数直線を読むときに大切なことは何かを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1目盛りの大きさは大切。 1目盛りの大きさは隣接した2つの数から読み取れる。 近くの日盛りに目をつければ、正しく速く分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の考えを自分なりの言葉で言い換えたり、繰り返したりすることで考えを深めさせる。 ◆B、C児童には共通点や類似点に焦点を当てて説明させ、1目盛りの大きさを読み取ることの大切さに気づかせる板書をした。 ◆A児童には違う視点からの解決方法を補うように説明させ、数の相対的な大きさについて板書で示したい。 発問によって、1目盛りの大きさは、隣接する2つの数を手がかりに読み取ることや、より正しく速く読み取るために、近くの日盛りに着目することのよさについて、意見を引き出したい。

支援 (【評価】、◆個への配慮)	2年学習活動	期	種	節	3年学習活動	支援 (【評価】、◆個への配慮)
<ul style="list-style-type: none"> 穴埋めができるような板書にして確認する。 練習問題で混乱しないように、「1めもりの大きさ」はいつも 100 でないことを付け加える。 	<p>6 まとめる。</p> <p>数の線のめもりを読むときには、1めもりの大きさに目をつけます。</p>				<p>6 まとめる。</p> <p>数の線のめもりを読むときには、1めもりの大きさに目をつけます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 穴埋めができるような板書にして確認する。 練習問題で2年生が「1めもりの大きさ」を出せなかったとき、アドバイスするよう励まし、1目盛りの大きさの読み取りを意識させ、正確にできるようにさせたい。
<ul style="list-style-type: none"> つまずきがある場合には、全体に助言する。 2つの並んでいる数に目をつけて1目盛りをとらえる。 ある位が繰り上がる部分では、百や十の位に着目させて100とびや10とびで数をとらえる。 分かったことだけでなく、3年生と学習してよかったことも書かせたい。 4桁の数の大きさを比べる勉強をすることを知らせる。 	<p>7 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> P53の㉔㉕を解く。 2年生と3年生のペアで答えを確認し合う。 <p>早く終わったら、どのようにして1目盛りの大きさを読み取ったのかを話し合う。</p> <p>8 振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習感想を書く。 今日の学習を振り返って学習の感想を書く。 <p>9 次の学習内容を知る。</p>	ま と め る 5 分	ま と め る 5 分	ま と め る 5 分	<p>7 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> P53の㉔㉕を解く。 2年生と3年生のペアで答えを確認し合う。 <p>早く終わったら、どのようにして1目盛りの大きさを読み取ったのかを話し合う。</p> <p>8 振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習感想を書く。 今日の学習を振り返って学習の感想を書く。 <p>9 次の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をして答えを確かめる。 3年生にリードさせるように励ます。 話し合いができたペアを指名し発表させ、全体で確認する。 ㉔の数直線と10000までの数直線を比較して、1目盛りの大きさが違うことに気づかせる。 分かったことだけでなく2年生のがんばりや2年生へのアドバイス等も書かせたい。 10000より大きい数の数直線を勉強することを知らせる。

8 板書計画

問題 下の線を見て答えましょう。
□にあてはまる数を答えましょう。

めあて
10000までの数の線のめもりを読みとろう。

0 1000 2000 ア イ 5000

↑ ↑ ↑ ↑ ↑

ウ エ オ

見とおし

- 左のはじ=0, 右にすすむと大きくなる。
- 大きなめもり, 中くらいのめもり
- 小さな1めもりの大きさ

解決

児童から出された答えや考えを数直線に書き込む。

まとめ

1めもりの大きさや近くのめもりに目をつければわかりやすい。

練習

- ㉔ (1) の数直線
- (2) の数直線
- (3) の数直線
- ㉕ の数直線

ふりかえり

前時使った10000までの数直線